

第72回車座集会意見交換内容（高津区）

- 1 開催日時 令和7年1月26日（日） 午前10時00分から午前11時56分まで
- 2 場 所 高津区役所5階 第1会議室
- 3 参加者等 参加者19名、傍聴者3名 合計22名

<開会>

司会：それでは、定刻となりましたので、ただいまから第72回車座集会を始めさせていただきます。

私は、本日の進行を務めさせていただきます高津区副区長の勝野と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本日の車座集会は、「キラリデッキから「ミゾノクチ」を区民が誇れるまちに」をテーマとしております。

市制100周年を機に、リニューアルを進めている溝口駅北口のペデストリアンデッキについて、私たちが目指す姿を皆様と共有することで、皆様と行政が手を携えながら、よりよい場所をつくっていくために、駅周辺の事業者の皆様、駅周辺で活動する団体や区民の皆様と市長とで意見交換を行っていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、開会に当たりまして、福田市長からご挨拶を申し上げます。市長、お願いいたします。

<市長挨拶>

市長：改めまして、おはようございます。

車座集会第72回目となる今日は、高津区、「キラリデッキから「ミゾノクチ」を区民が誇れるまちへ」ということで、この高津区で、溝口を中心にいろんな活動されている方たちが一堂に会して、今、説明があったように100周年事業を通じて、キラリデッキが25年ぶりぐらい、四半世紀ぶりにリニューアルする、ステージも今回いいのができたということをきっかけにして、さらにどう魅力をアップしていくかを皆さんと討議して、そして何か1つでも前に進むような具体的なものにつながっていけばいいなというふうに思っております。

日曜日ということで、大変貴重な時間を皆さんにいただきましたことに心から感謝申し上げたいと思います。

では、どうぞよろしくお願いします。

司会：市長ありがとうございました。

ここで、本日の進め方をご案内いたします。

まず、高津区長から、キラリデッキリニューアルの進捗状況についてご説明させていただきます。

続きまして、皆様のご紹介を兼ねつつ、キラリデッキについて一言ずついただき、意見交換へと進んでまいります。

それでは、この後の進行は、福田市長からお願いいたします。

<キラリデッキのめざすべき姿について>

市長：ありがとうございました。

それでは、まず高津区長のほうから、現状と目指すべき姿について、簡単にご説明させていただくということで、よろしくお願いします。

区長：皆さん、おはようございます。紹介がありました高津区長の高橋でございます。よろしくお願いいた

します。

私から、キラリデッキの目指す姿とリニューアルについて説明させていただきます。

キラリデッキは、先ほど市長からお話があったように、今から約25年前、平成11年、1999年に誕生したところでございます。面積は約5,000平米というところで、皆さんご存じのとおり、JRさんと、それから東急さんの乗換えのお客様、そして……

見えにくい。向こう。分かりました。じゃあ、こちらで。

それで、乗換えのお客様がいて、にぎわっていると。また、周辺の商業施設等もありますので、商店街とか、そういった方がそこに来てにぎわっている状況でございます。

それと、脱炭素ということで言いますと、2022年に高津区溝の口が国の脱炭素先行地域に選ばれて、キラリデッキを含む溝の口駅周辺地域で、様々な脱炭素の取組も行われているといった状況でございます。

ただし、キラリデッキも様々な施設と同じで永久不変ではございません。完成から四半世紀を過ぎて、各種設備の更新が必要となったり、当初の想定と違う使われ方が行われていたりといった状況が発生しておりました。

これは喫煙所の様子ですけれども、その木が枯れてしまって、周りから煙が、以前のですけど、煙が出ていたりですとか、それから、もうその樹枝自体も枯れてしまったりとか。

次のスライドですが、こういうところがあまり使えないエリアが出てきてしまったり。それから、たばこの煙とか、そういうこともあって、エリアごとに使われている場所、使われない場所が出てきてしまって、この裏側の道というか、通路のところはあまり使われていなかったんですね。

それから右側のほうは、これは見にくいですが、ネズミさんが巣を作ってしまったていて、そこでふだん、ちょっと姿を見たりするといったような状況も起こっていました。

そうしたところ、やっぱり我々としては、そういう状況ではいけないと、市制100周年を機に、川崎市として、高津区として、キラリデッキを脱炭素を感じられる区民が誇れる空間にしようというところを目指して、様々なリニューアルを行ってきたという状況でございます。

まず、さっき言った、枯れてしまった樹枝とかは撤去しまして、そこにはモッコウバラと芝生。これ芝生はまだ植わっていて、これから、もう今は生えてきていますけれども。それから、手前にある木製ベンチも作るということで、そういうグリーン空間を整備しました。

あと、奥のほうには、喫煙所があったところは、1階に移しまして、1階の喫煙所を拡張して、森の喫煙所と私が勝手に呼んでいるんですけれども、そういうふうにさせていただきました。

それから、2階の喫煙所の跡には、脱炭素を感じられる木製のステージが完成したというところでございます。

次、行ってください。

これが森の喫煙所ですね。もっときれいになりますけれども。

次、これがキラリデッキステージになります。これは先日のこけら落としのときですけれども、大変盛り上がり、すばらしいステージになったんじゃないかなというふうに思っております。

次、行ってください。これは樹種ですけれども、植え替えて色とりどり、目で見て楽しめる樹種に植え替えもさせていただきました。

今後も皆さんの意見を聞きながら、ステージやステージ周辺のバージョンアップを進めてまいりますけれども、パーゴラを作ったりとか、もっとそれから、さらに植え替えも進めますし、それから、キラリデッキ自体も少しずつですけれどもバージョンアップをしていこうというふうに思っております。キラリデッキステージですね。

ハード的なリニューアルが進む中で、大事なことというのは、どう使うかというところでございます。リ

リニューアルが進んでいるキラリデッキを上手に使うということができれば、新たな人と人、人と街のそういうつながりが生まれて、地域、人々の暮らしがよくなるというふうに考えております。

そのために重要なのは、キラリデッキを輝かせる、そのアイデアの卵をどんどんどんどん、たくさん生み出して、それができるのが、このキラリデッキ、それから溝口地域に関わっている皆さんであると思っています。そして、その卵を最適なタイミングでふ化させることができるのも皆さんだと思っています。

今日は、この車座集会を通じて、皆さんがいろいろそのアイデアの卵を出していただいて、それでキラリデッキが脱炭素を感じられる区民が誇れる空間になるよう、意見交換を闊達にしていいただければと思います。本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

市長：ありがとうございます。高橋区長も、そして区役所職員も、このキラリデッキのリニューアル、かなり熱い思いを持って取り組んできたということが分かっていたのではないかなと思います。

僕もあそこを歩くと、大体ルートは決まっていて、今、ご紹介のあった、ちょっとトイレある側のほうの通路は、ほぼ歩かないという感じだったのが、それがみんな習慣づいちゃったなという感じはするんですね。

私たち役所とすれば、ハード整備はちゃんとできるんですけど、いかにうまく、区長から話があったように活用していただくかというのは、これはもう住民の皆さん、地域の皆さんと一緒に作り出していくということが、何よりそこは僕たちができない部分ということなので、いかにうまく使いこなしていただくかということになるかと思います。

今日は、そのアイデアの種を出し合って、そして1つでも、2つでも、3つでも、どんどん実現させていくということに、まずは始めていきたいというふうに思っています。

まず、今、区長から目指すべき姿だとか、今こういうリニューアルができましたよという説明がありましたが、これについての感想と、それからまず、皆さんが自己紹介していただいて、期待することだとか、自分たちはこんな活動をやっていますとか、また、こうしていきたいみたいなことがありましたら、簡潔にちょっとお話しただければと思うんですけども、今日は19名参加者がいらっしゃいますので、簡潔に1、2分で、一言ずつお話しただければと思います。

それでは、藤田さん、丸山さんと、こういうふうが続いていっていただいてもよろしいでしょうか。では、マイクを回しますね。

<参加者自己紹介>

藤田将友さん：皆さん、おはようございます。“m i d o r i - b a”の藤田と申します。

“m i d o r i - b a”は、今回の川崎緑化フェアのみどり共創プロジェクトというプロジェクトから生まれました団体でございまして、生まれたてホヤホヤです。詳しくは、丸山さんにお話しただこうと思います。

私自身は、5年前から庭師とか造園家の方々と一緒に、丸井の裏、持田駐車場の屋上eM/P a r kで、庭師の地位向上、緑の少ない溝口のまちの緑を増やすという実験的なイベントをやっております。4月18、19、20、これは去年のものなんですけど、今年も4月に行いますので、皆さんお越しいただければと思います。

私自身は、7年前から不動産や建築の仕事をしているんですけど、キラリデッキは、非常にまちの資源だなと。キラリデッキとK S Pが、僕は溝口の人間じゃないんですけど、やってきたときに、ここがもっと活用されたらすごいことになるなと思っていたので、皆さんと一緒に話しできればと思います。よろしくお願いいたします。

市長：ありがとうございます。

丸山さん、お願いします。

丸山さん：丸山と申します。今日は、よろしくお願いいたします。

私は、溝口に住んでおりまして、また、このまちで「手と手を」というカフェでしたり、「ノクチラボ」というシェアマーケットや「レン」というベーカリーなどを展開しております。

また事業以外は、「まちの企画室」といって、まちづくりのコミュニティーを、この高津区役所の地域振興課さんや企画課さんとも連携しながら、このまちのまちづくりというのを考えております。

先ほどの“m i d o r i - b a”の一員でもあるんですけれども、“m i d o r i - b a”は、川崎市の100周年事業の一環で、みどりの共創プロジェクトというものから生まれまして、今、9団体の市内の緑に関わる団体が集まって、共創事業をやっているというものです。100周年事業ですので、この3月で一旦終わってしまうんですが、せっかく同じ志で集まったこの団体がこれで終わってしまうのもったいないねということで、2025年度も自走化に向けて、NPO法人化を目指して、今準備しているところです。

そんな“m i d o r i - b a”が、昨年11月16日にキラリデッキで、先ほどと同じく、100周年事業の脱炭素アクションのイベントと同時開催で連携して、“m i d o r i - b a”フェスというものを開催させていただきました。

“m i d o r i - b a”フェスは、公共空間における緑の社会実験フェスというのをコンセプトにしまして、ちょうど木質ステージも完成したタイミングということで、そのステージ上で、藤田さんの造園師によるインスタレーションでしたり、このまちのミュージシャンとか、アーティストのちょっとコラボレーション企画などをやったりだとか、あとはみどり共創団体によるマルシェ出店とか、ワークショップなどをキラリデッキの上でやらせていただきました。“m i d o r i - b a”フェス自体は、ちょうど3月の22、23、春の緑化フェアのスタートの際に、今度は富士見公園のほうで、“m i d o r i - b a”フェス同時開催というのもやらせていただく予定です。

今回はキラリデッキの活用ということがテーマですので、まちづくりでしたり、緑でしたり、あるいは音楽やアートといった様々なアプローチができればなというふうに考えておりますので、今日は、そんな感じで提案させていただければと思います。よろしくお願いいたします。

市長：ありがとうございました。100周年でつながった9団体が、NPOでまた再結集というか、今までつながってきたことが、今度は緑の文化を作り出していくという、100周年をきっかけにして、そういうのが生まれたことはすごくうれしいですね。ありがとうございます。レガシーですね。ありがとうございます。

それでは、お願いします。

小野木さん：どうも、おはようございます。JR武蔵溝ノ口駅の小野木と申します。

JR武蔵溝ノ口駅では、地域に根差した駅、そして皆様に親しまれる駅を目指して、日夜活動しております。

活動内容といたしましては、昨年の7月1日に、ホームの発車メロディーを期間限定ではございますが、地元の洗足学園ご出身の平原綾香さんのJ u p i t e rに変更させていただきました。これは高橋区長を含めまして、高津区の皆さんのご協力、また洗足学園の皆様にも多大なるご尽力いただきまして、変更することができました。

また、直近で言えば昨日なんですけれども、駅の特別スペースにおきまして、伊豆の産直市を開催いたしました。その中でも洗足学園様のご協力をいただきまして、地元のアイドルということで、MARUKAD

〇のメンバーの方にもお越しいただきまして、イベントを盛り上げていただきました。

今後も、地域の皆様と協力しながら、愛される駅を目指して頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

市長：お願いいたします。

谷さん：改めまして、おはようございます。東急線の溝の口駅で駅長しております谷と申します。本日はよろしくお願いいたします。

私は、駅係員で働いていた30年ぐらい前ですかね。溝の口の駅のほうでも勤務していまして、その頃と比べると、もう格段に全く違う空間になっているかなというふうに思っているところでございます。

二子新地駅から梶が谷駅まで、高津区にある4駅を管理しているというところになります。

キラリデッキのほうについては、日々、まちの方、お客様も、少し足を止めていく空間になってきているかなというふうに思っております。

また、脱炭素モデル地区として溝の口は重点エリアになっているというところで、川崎市の連携等も、東急電鉄のほうではさせていただいているところでございます。鉄道においては、CO₂削減、CO₂排出量も含め、環境に非常に優しい乗り物になっているというところでございますので、ぜひ、鉄道で移動していただくと、まちの方、区民の方、また市民、いろいろな場所から訪れていただきたいまちの一助になるといいかなというふうに思っております。

駅の活動においては、駅周辺の美化活動、JR様と連携とか、警察・消防と連携したイベントの参加など、積極的に行っているところでございます。今後、まちの方々とも連携できると、また何か新しいことが生まれて、いいまちに、一助になるかなというふうに思っております。

また、川崎市の100周年事業、緑化フェア。こちらの時期においては、フラワーロスを活用して、高津の駅でフラワーイベントを開催させていただいたところです。この春にも同様、今度は溝の口の駅周辺でもできないかなといったところもありますけれども、今、検討を進めているところでございます。

最後に、東急線の「のるるん」というキャラクターがございまして、溝の口のまちのどこかに出沒できるようなイベント、または皆様と連携して、まちを盛り上げる一助になるといいかなというふうに思っておりますので、今後とも、引き続きよろしくお願いいたします。

市長：ありがとうございました。

両駅長さんが参加していただけるのは、本当にありがたいですね。そういう意味では、交通事業者様ということもありますけれども、本当にまちづくりのパートナーとしていろんな事業に協力していただいていることに感謝申し上げます。ありがとうございます。

それでは、佐藤さん、お願いします。

佐藤さん：おはようございます。はじめまして、マルイファミリー溝の口の主に販促の担当をしております佐藤と申します。よろしくお願いいたします。

マルイファミリー溝の口は、1997年に開業しまして、本当に地域の皆様に愛されて、ここまで頑張ってきたかなと思っております。

私は2005年に、こちらの溝の口店に入社しまして、もうずっと溝の口で働いているレアなスタッフになるんですけども、もともと子どもの頃からずっと溝の口に、マルイができる前から住んでおりまして、今は、中学ぐらいから宮前区のほうには移ったんですが、ずっと川崎市民だったもので、人一倍、まちが好きで、溝口にご縁があって、ずっと勤めさせていただいているというのもあって、地域のお客様に喜んでいただき

たいという思いから、地域の小学校であったり、ママさんであったり、行政の方と協力してイベントなどをマルイのほうでやらせていただいたのがきっかけで、今回参加させていただくことになりました。

このキラリデッキは、すごく自然にあふれる場所が変わってきていて、ステージができていて、マルイにつながる道がどんどんすてきになっていくのは、とても賛成しております、うれしくて、私としては、今後このキラリデッキが、将来を担う子どもたちの活躍できる場所になればいいなと思っております。

やっぱり脱炭素といえば、子どもたちの未来のためにというのがキーワードにあると思うので、そういう子どもたちが、せっかくステージができたので、活躍できて、いろんな人と交流ができる場所になってもらえたらなと、とても思っておりますので、そういったアイデアが、ちょっとご提案できたらなと思っております。

あと、また余談になりますが、キラリデッキは子どもたちの心に残るような、大人になっても一生心に残るような場所になってもらいたいと思うので、例えば渋谷のハチ公みたいに、キラリデッキに1本の木みたいな、シンボルみたいなものができたらいいな、なんて思ったりしております。よろしくお願いいたします。

市長：ありがとうございます。

皆さん、溝口に対する思いが熱いので、若干延び目になっていきますので、やや短めにお願いできればと思います。、永山さん、お願いします。

永山さん：皆さん、はじめまして、みぞのくち新都市株式会社、NOCTYの管理会社の永山と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

先ほどお話がありましたように、NOCTYは平成9年に完成して、ほぼ、キラリデッキと一緒に歴史を刻んできたというような形でございます。弊社は、川崎市様と、それからマルイ様、あと、地権者の地元の方々の株主さん、いわゆる第三セクターの会社でございまして、半公共的な会社でございまして、会社経営はありますけれども、環境地域貢献ということで取組を進めているところでございます。

令和3年度から施設の電気は、これは全部、100%再生可能エネルギーを利用していますし、キラリデッキの関係で申しますと、今年25回目を迎えました、今日、中村会長がいらっしゃいますけど、イルミネーションをずっと続けているところでございます。

すごくいいデッキだと思いますので、ぜひ、いいアイデアが実現できればなと思っておりますし、弊社は、その活動を下支えできるような取組ができればなというふうに思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

市長：ありがとうございます。

庄司さん。

庄司さん：川崎市地球温暖化防止活動推進センターのセンター長をしております庄司です。よろしくお願いいたします。

センターは、2011年にできて今年で15年目。マルイさんのNOCTY2の11階、高津市民館の中にあるんですが、いろいろな方、市民、事業者の方と一緒に脱炭素を進めていきます。今も「脱炭素アクションみぞのくち」という話が出ましたけれど、そこで取り組む事業者さんのご紹介など、月ごとに案内していきたいと思えます。

また、脱炭素ということでは、JRの溝ノ口駅を降りると木質化ができて、いい雰囲気と思いながらキラリデッキのほうに行きますと、前は市長みたいにあそこの道は避けていたんです。ところが今は、今日はこ

こから行こうかな、今日はこっちから行こうかなというふうに、いろんなルートで、私は東急線も使っていますので、いろんなルートを使わせていただき、すごく花の数が多いということで、ミニ・ガーデンの方とか、すばらしいなと思っているんですが、毎日気持ちよく通勤できているなと思います。

いろいろ使いたいアイデアはいっぱいありますので、後でご紹介できればなと思っております。よろしくお願いいたします。

市長：ありがとうございます。

高橋さん、お願いします。

高橋さん：何だかみんな会社のお偉方で、ちょっと一般市民でございます。高津の区民ミニ・ガーデンというものをやっています、区の10か所ぐらいに70名ぐらいで、主にシニアで今活動しています。

キラリデッキについては、秋、11月ぐらいに子どもさんを募集して、一緒にお花の植栽体験をやるんですけども、とにかくコロナの騒ぎで、子どもさんたち和我々シニアが合体するわけには本当にいなくなってしまって、それ以来、私たちだけで植えています。

あそこの問題は、まず植えた途端にハトが食べるという問題なんですね。ちょっと本当に、えーと思いながら、テグスを引いてもらって、1か月ぐらい、苗が大きくなるのを待っていたり、それとあと、ネズミさんの問題もありますけれども、一番の問題は人間で、結局ベンチが、あそこのキラリデッキ全体にほとんどないので、結局、花壇の端に皆さんがお座りになられて、座ると、たばこを吸った人は、立ち上がるときにたばこをこうやっていくし、ペットボトルで飲んでいる方は、結局飲み終わったペットボトルをそこに置いていくと。あそこを清掃してくださっている方が、いつも片づけてくださるんですけども、花壇とベンチ、人の座るところというのを少し分けられるようにしたら、もうちょっと人が滞留するためにも、あっち側のほうも、デッキのところに滞留するにも、ベンチがあって、そこに人が座れるとか、そういうアイデアが欲しいなと思います。

以上です。

市長：ありがとうございます。

五十嵐さん、お願いします。

五十嵐さん：音楽をやっています、ドラムの五十嵐公太と申します。

自分は、東高津小学校、高津中学校、まさに子どもの頃から溝口周辺で、生まれて育ってきたんですけども、その当時、マルイができる前までは、溝口は怖いところだから絶対に行っちゃいけない。あそこに行ったら、ゲーセンの下でカツアゲされるし、そんなまちでした。それで育って行って、JUDY AND MARYというバンドをやっていたときも住んでいたんですけども、住みづらくなって世田谷のほうに逃げました。15年は向こうに住んでいて、改めて外からこっちを見ると、やっぱり高津、川崎はあんまり好きじゃなかったんです。なぜかという、やっぱり汚いんですよ。まちが汚い。電線が汚い。せっかくいい花火をやっているのに電線で見えない。外から見るとそういうまちが嫌いで、でも、自分のふるさと。ふるさとなのに嫌いだというこれも嫌いで。戻ってきて、もう20年近くは住んでいますけれども、だったら、何とかふるさと、嫌いだったまちをもっともっと好きになれないかなということで、去年100周年をきっかけに、溝口のステージを作るということをやりました。

今、先におっしゃったように、やっぱり問題は人だと思います。意識の問題だと思います。せっかく作ったきれいなデッキに座って、朝から缶チューハイを飲んで寝ているおじさんがいる。それから、たばこを吸って、そのまま缶を置いて、たばこを。あんなきれいなデッキを作ったのに、そこでたばこを消して、ごみ

を捨てていく人間がいる。これは意識の問題だと思います。

せっかくのきれいな場所をきれいな場所にしないと、きれいな人は住まない。せっかく作ったんだから自由が丘だったり、二子玉川だったり、恵比寿だったり、やっぱりプライドのあるまちみたいに。プライドがないと何をやっていても駄目だと思うんです。音楽をやっていても、アートをやっていても、ダンスを踊っていても、やっぱり俺たち川崎は東京には負けないぜという斜に構えたような目線ではなくて、もっと自然にプライドを持てるようなまち、そんなきれいなまちにしていけたらいいなと思っております。

いろいろやっぱり、こういう話を進めるに当たり、ルールというものがいっぱいあって、自分はロックをやっていたので、そのルールをぶっ壊すところから音楽を始めました。なので、そういうルールづくりに関しては、今後は皆様にお任せして、いいまち、自慢のできるまちにしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

市長：ありがとうございます。

吉岡さん、お願いします。

吉岡さん：私は、洗足学園音楽大学演奏支援センターの吉岡と申します。よろしくお願いいたします。

洗足学園は、昨年１００周年を迎えまして、現在では幼稚園から大学・大学院までを設置する学園というふうになっております。

私の所属する大学は音楽大学となりまして、大学では実践を重視した教育を行っております。事業成果の発表の場である演奏会は、２０２４年度は２８０公演を予定しております、順調に実施しております。

私は、この演奏会を支える仕事をしておりまして、演奏会の中身は学生さんであつたり先生方が企画しまして実施しておりますが、演奏会の外側といいます、予算のところであつたり、経費処理、あとは演奏会スケジュールが２８０公演ですので、結構、過密日程というふうになっており大変です。そのほか、演奏会を行う施設設備の管理など、あとチケットやお客様の対応など、そんなことを担当している部署に所属しております。

地域に関連した活動といたしましては、昨年、私どもは１００周年を迎えましたが、ご承知のとおり、川崎市も１００周年を迎えました。このようなきっかけをいただきまして、昨年は市長にも、私どもの洗足学園に来ていただきまして、１００周年のフェスティバルを実施しました。また、ＪＲの武蔵溝ノ口の発車メロディー、平原さんのＪｕｐｉｔｅｒの発車メロディーの制作のほうに協力させていただきました。そのほか、川崎信用金庫さんと包括連携契約を締結しまして、音楽の振興に携わったり、また、キラリデッキのステージでは、オープニングで大学の学生からなるアイドルグループ「MARUKADO」が出演したりと、様々な活動をしております。

これからも地域と結びついた活動を積極的にしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

市長：ありがとうございます。

重岡さん、お願いします。

重岡さん：お世話になっております。溝ノ口劇場の重岡と申します。

溝ノ口劇場は、今年で７周年になりまして、８周年目に向かってやっております。

ふだん、どういうことをやっているかとよく聞かれるんですけども、音楽、ミュージカル、芝居、落語、いろいろポールダンスでも、何でもできるようにはしております。地元の子どものイベントですと、３月とかは幼稚園保育園等の謝恩会だったりとか、先日は成人式の二次会で、高津中、東高津中の子たちが初

めて当劇場でお酒を飲むというような形で、タウンニュースさんにも載せていただいたりしております。

この前のキラリデッキのこけら落としに関してもお手伝いはさせていただいております、僕も、もうこのまちで本当に根を下ろして一生やっていこうと思って、たくさん、この7年で12人ぐらいは引っ越しをさせて、高津区民をちょっとずつだけ増やしていております。

やっぱりあの場所、全国でもいろんなところでストリートミュージシャンだったりとか、いろんな盛んにやっているようなまちがあると思うんですけど、溝口も、そういうふうに本当にできたらいいなと思っています。もちろん、音楽だけじゃなくてダンスとか、駅前のところがブレイキングのおかげで聖地になっていると思うんですけど、ああいった形にやっぱり近づけられるようなことを何かできたら本当にいいなと思っています。溝口のためになれるように僕も頑張りたいなと思いますので、今後ともよろしくお願いいたします。

市長：ありがとうございます。

それでは、藤田さん、お願いします。

藤田陽子さん：皆さん、おはようございます。「踊っている私たちも、見ている皆さんも、ダンスでみんなをハッピーに」をモットーに活動しています。二子新地のダンススタジオ「Dance Space DD」の藤田陽子です。地域の皆さんからは、陽子先生と呼ばれています。丸山さんがすごくにこやかに見ている。

二子新地でダンススクールをして18年になります。私はダンスを通じて、地域の人とたくさんのつながりができて、今は、とっても楽しい毎日を送らせていただいています。

高津区民祭やカレーグランプリなどでイベントがあるときには、ほかのダンススクールに声をかけて、ダンスステージを企画したりもしています。ダンスステージを企画すると、ステージで踊りたいというダンサーの子たちが300人から500人、すぐに集まる状況なんですね。ただ、今は野外でステージを立てるのがちょっと大変で、結構お金もかかってくる状況だったので、常設のステージができたらいいなと思っていたところにできたので、今すごくうれしく思っております。本当に思っています。

高津区には、ダンススクールがたくさんありまして、実はプロのダンサーもたくさん住んでいます。ダンスでもっともっと地域を盛り上げていけるんじゃないかと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

市長：ありがとうございます。

藤田陽子さん：キラリデッキのステージの名前は…まだ決まっていない、そうですか。キラリデッキのステージは、一度この間、下見で立ったんですけど、すごく眺めがよくて、ここはステージに立ったことがない人も、何か立てるような企画ができたらいいんじゃないかなと思っております。よろしくお願いします。

市長：ありがとうございます。

それでは、須藤さん、お願いします。

須藤さん：おはようございます。高津区子ども会連合会から参加しております須藤と申します。

連合会は、今年で74年目を迎えます。子どもは地域の宝、そして高津区のまち全体が子どもたちの学びの場ということで、様々な活動、少年野球から美化活動ですね、玉川のクリーン作戦などもずっと続けておりますし、たくさんの活動をしています。

昨日も、実は区役所の区民ホールをお借りして、作品展という、子どもたちが書いた書道や絵画、ちぎり

絵、イラストなどの作品の表彰式をさせていただきました。

そういう意味では、ステージのところで、そういう晴れの間とか、そういった使い道もあるのかなと思いますし、子どもたちの活動が皆さんに知ってもらえるように、アピールする場になっていけたらいいのかなと思っています。本日はよろしくお願いいたします。

市長：ありがとうございます。

それでは、榎田さん、お願いします。

榎田さん：よろしくお願いいたします。高津市民館の市民自主学級の企画運営をするようになって4年たちました。その団体の名前が、「それゆけ！にじいろ銀河の会」ということで、5歳、年中さんの学年のママたちが集まって、育児とかの講座をするような企画をしています。

そのほかに、私は個人的にはほかのママ友と、育児支援活動というほどではないですけども、手形、足形だったりとか、木のおもちゃの広場だったりとか、あと季節のブースをつくったりして、撮影会をしたりして、ママたちが集まれる場ということで、てくのかわさを借りたりですとか、いろんな場所を借りて集まれる場所をつくったりをしています。

もともとこれを始めたのが、子どもが生まれてすぐにコロナになってしまって、支援センターにも行けない、どうしようというところで、たまたま集まったママたちが市民館の和室を借りて、ちょっと集まれる場をつくろうということで遊び出し、本当に数10組ぐらいとか、最終的には15ぐらいのママたちが集まって、そのときに来られる子たちが集まろうという形で集まったのが最初のきっかけで、そこから市民館の方たちからにも声をかけてもらったりして、こういう活動が続いているような形です。

キラリデッキなんですけど、私も、実はあまり向こう側は歩かないんですが、その理由の1つというのが、日陰がないというのも1つあると思っています。ちょっと小雨の雨が降ってきたときも、向こう側だったら傘を差さずに行けるけれども、反対側だと傘を差さないといけない。それから、あとトイレとかもやっぱりちょっと怖いイメージがあって、子どもたちがもしトイレに行きたいとなったとしても、すぐに、もうNOCITYに駆け込もう、マルイに駆け込もうというふうになってしまって、あそこに寄ろうとは思わない。そういうような、やっぱりちょっと陰なイメージがどうしてもあるので、それをもう少し、反対の駅側と同じぐらい明るい場所になったら、より向こう側も歩きたくなるのかな。

これから夏になって、特にカンカン照りになってきたときに暑いので、向こう側はより通らなくなると思うんですね。なので、そういった日陰というのにも必要かなというふうに思っています。よろしくお願いいたします。

市長：ありがとうございます。

それでは、大木さん、お願いします。

大木さん：ちょっと緊張しておりますが、よろしくお願いいたします。同じく、子育てサークル「それゆけ！にじいろ銀河の会」の大木と申します。

活動内容としては、今言っていたような活動内容になりまして、今後、キラリデッキに望むことは、私たち子育て世代は、あそこの道を立ち入ったりすることがあまりないので、ぜひ、子どもたちが安全で通れる場所、何かモチーフ的な場所、皆さん今回そういった方がたくさん集まっているので、ぜひ、そういったことを実現していただけると、子育て世代にも結構影響が出てくると思いますので、ぜひ、今回この場でよろしくお願いいたしますと思っています。よろしくお願いいたします。

市長：ありがとうございました。

それでは、齋藤さん、お願いします。

齋藤さん：高津高校生徒会執行部1年の齋藤乃葵と申します。

私たちは、生徒会活動として、TCPという高津クリーンプロジェクトというごみ拾いを通じて、まちをきれいにするだけではなく、そのごみ拾いの中で人との輪を広げるというのを目標に活動をしています。

私がキラリデッキでやりたいことというのは、溝ノ口駅周辺で学校が4つあるというのがすごい、何かあんまり見ない光景というか、そういうがあるので、キラリデッキを使って学生が中心となったお祭りというものを開けたら、子どもだけじゃなくて、大人の方も気軽に参加できたり、交流ができたりするんじゃないかなと思っているので、そういう場をこの場で考えられたらいいなと思っています。よろしくお願いします。

市長：ありがとうございました。

岩崎さん、お願いします。

岩崎さん：同じく、高津高校生徒会執行部の1年の岩崎栞です。

私は、活動内容については齋藤さんと同じで、高津クリーンプロジェクトというものをやっています。

キラリデッキについて私が思うことは、高津高校の一生徒として、やっぱりよく聞くのが、汚いイメージが多くて、ただの通学路としてしか利用しないというか、そこにとどまって何かするというのではなくて、あと、先ほどおっしゃられていたように、花壇の縁の部分に座って、近くのコンビニとかで買ったものを食べたりして、その付近にやっぱりごみがたまってしまうというのをよく見かけるんですね。だから、まずはそのイメージ改善と、それなりの常識と言ったらあれですけど、そもそものまちの人たちの見方を変えていけたらいいなと思っています。よろしくお願いします。

市長：ありがとうございます。

それでは、持田さん、お願いします。

持田さん：18番、持田と申します。溝ノ口駅前商店街振興組合代表理事を務めております。通称ポレポレという形で、皆さんにはお見知りおきをいただいていると思っております。

逆に、振興組合という非常に堅苦しい名前があって、法人化をしたわけなんですけれども、北口駅前再開発、それが進むにつれ、進む前からなんですけれども、このままでは商店街が取り残されるぞという意識が生まれました。

先ほど、高津高校の生徒さんが汚いとおっしゃっていましたが、電線地中化をしていなかったときは、今のドン・キホーテさん、マルエツさん、みんな駐輪場でした。要するに、人がとてもまともに歩けない、そういったまちでございました。そういったことで、法人化を含めて国の予算をいただき、電線地中化及びモール化をしていこうという形が、今の現在のポレポレになっております。

おかげさまで、川崎市内の各商店街の中でも、平日の人通りが日中1万7,000前後ということで、非常に外から見ると栄えているねと言っただけの商店街になっております。

逆に、あとは人がそれだけ集まるということは、やはり汚れる、ごみが落ちているということがあるんで、私ども商店街としては、朝8時から10時まで、人を雇いまして清掃という形を取っております。

逆に、あとキラリデッキのことになってくると、なかなかデッキができた頃、私も商店街のお店にご案内をするのに、駅を降りたけど、どっちへ行けばいいんだというようなお電話を結構いただきました。今では、

それこそ、どこの出口を降りれば、どこへ行くというのをお客様自身も大分ご理解をいただいておりますが、当時は、結構説明に苦労しました。

逆に、私どもは、あの頃は若かったものですから、青年部というような形で、川崎市のほうが再開発の意見を聞きたいということで、なぜ2階に交番をつくらないのという質問をしました。そうすると、どういう答えかと申し上げますと、今は6人体制なんですね。2階につけると6人、6人の12人体制になると。そうすると県警本部の管轄になって、高津の所長管轄を外れてしまうと。そうするといろんなことについて動きが後手、後手になるおそれがあるんですということで、お気づきかもしれませんが、2階の部分に交番の「交」という、何の意味か分かる方は分かるんですけども、交わるという看板がついております。

そんなわけで、我々商店街も溝口、高津区23万5,000人。1日の乗降が、東急さん、JRさんを合わせて、やはり23万ぐらいということで承知をしておるんですが、マルイさんには1日6万人の方が入ります。私どもは、それに比べて1万7,000ということで、どうにぎわいを創出していくかというところで、日々活動しております。ポレポレをよろしくお願いします。

中村さん：すみません、最後になりますが、溝口のキラリデッキイルミネーション実行委員長を務めさせていただいております中村と申します。

今回で25回目になるんですが、私も溝口で生まれていますので全部見ているんですが、あそこは最初の頃に比べたら随分きれいになっているんですが、それでもまだまだかなという。イルミネーションにしても、どうしてもあちらのほうにちょっと暗くなってしまう。つけるのが、やっぱり駅の南武線側に、予算の問題もあるんですが、なかなか協賛金も集まらない部分もありまして、もうちょっとでもいいからきれいに、あそこを明るくしたら人が通りやすいのかなというのは、いつも思っています。

私も、溝口の商店会並びにテナント会の会長も務めておりまして、溝口全体をマルイとNOCTYと、それからマルイのポレポレ通りも含めて、溝口を、100周年を迎えて、これからの100年に向かって、イルミネーション通じて商業と観光のまちづくりの発展に寄与していきたいと思っております。

今日はいろんなアイデアをいただいて、これちょっとまた、私も参考にさせていただいて検討させていただきたいと思っています。よろしくお願いします。

市長：ありがとうございました。

皆さんのあふれる思いを聞かせていただいて、この人こういうことをやっているんだろうなということをお互いに改めて知ることができたんじゃないかというふうに思います。

<意見交換>

市長：それでは、ここから、どうやってこれからキラリデッキを活用していくかというふうな、具体的な、こんなことをしたいなというような話をみんなで重ね合わせていくというような作業に入っていきたいというふうに思うんですけども。皆さん、それぞれいろんな方をもう既につないでいただいている、例えば、ダンスでいろんなグループをつないでいただいたり、ミュージシャンの皆さんをつないでいただいたり、あるいはママ友をつないでいただいたりとかということもありますし、緑でつながっているということもありますけれども、それを何ていうかクロスオーバーするとか、自分たちのところだけじゃなくて、ほかのところにつながることによって、もっと楽しくなってくるというふうに思っているんですけども。そういう意味では、キラリデッキをどううまく活用するかということなんですが、皆さん、先ほど高津高校の皆さんからは、学生中心でお祭りを企画したいというふうなお話もありましたし、もう既に五十嵐さんはイベントをキラリデッキで運営していただいたりだとかというふうなのがありますけれども、どこからでも結構です。こんなことやってみたいなというふうなことがあれば、うれしく思うんですけども、いかがでしょう

か。どなたからでも結構です。

庄司さん。

庄司さん：ありがとうございます。いや本当に皆さんからいろいろなアイデアが出て、どれもすばらしいなと思いました。

私たちは、今、脱炭素を進めたいと思っているんですが、脱炭素×ダンス、脱炭素×緑。こういったときに、ぜひコラボレーションしてもらいたいなと。必ず未来の今後の100年が、カーボンニュートラルで本当に子どもたちに生きやすいまちになるように、やっぱり脱炭素というのを入れてもらえたらどうかというふうに思っています。

ぜひ、キラリデッキのステージにいろんな方が乗れるといいなとおっしゃっていましたが、私もそう思うんです。見ていただけじゃない。受け身じゃない。自分も参加者なんだというか、作り手の1人なんだと思えるような仕組みをしていただいて、参加者も主役になれるように、ちょっと仕組んでいただけるといいなと思います。

ありがとうございます。

市長：ありがとうございます。

五十嵐さん、どうぞ。

五十嵐さん：キラリデッキのステージを作った思いの部分なんですけれども、やっぱりその文化とか、例えばダンスにしても、音楽にしても、テレビにしても、全部若者中心じゃないですか。若者が何かやるものみたいな形で、大人は参加できないようなイメージがあるんですけれども、実際自分も既に62になりまして、やっぱりあそこのステージはいろんな人に乗ってもらいたい。もちろん、ダンスをやっている若者、小学生、幼稚園の子も、でも、実は我々世代、もっと上の先輩方も、例えばカラオケ大会をやったりとか、お祭りをやったりとか、みんなが集まれるような場所にしたいんです。あそこのステージは。

まちでいろんなことを発信して、例えば選挙があれば、そこで演説をしてもいいし、集会をやってもいいし、もちろんそこにはルールが必要だとは思いますが、いろんな形でいろんな人があそこに立って、立って初めて意識するということを、そんな場になってもらいたいなと思っております。なので、そこを、はい。

市長：ありがとうございます。

例えば溝ノ口劇場でも、重岡さんもこのデッキの使い方に関わっていただいていると思うんですけど、川崎の駅前なんかも、あそこはホリプロが新しいホールを、ライブハウスを造られましたよね。あそこのまちの中でやっているミュージシャンとホールというのが、すごく連動してきているんですよね。あそこは路上でやっていた人たちが少し集客できるようになってきたら、うちのホールでやってみないかという形で、さらに人を集められるようになってくると、ラゾーナのステージに立てるというふうな、こういう何かステップアップ的なことができているということかというと、溝ノ口劇場とデッキだとか、何かうまい、何ていうんですかね、屋内、屋外だけでなく、レベル感とか、そういう連携の仕方はありますよね。

重岡さん：はい。もちろんそういったこともすごくしたいなと思っていますし、いろいろアイデアもあるんですけど、多分皆さん共通で思われていることで、課題は結構そこは明確で、やっぱり屋根がないことだったりとか、暗いことだったりとか、あと実際に音が出せない、そこまで。

多分、何かあれですよ。建物的にも、あまりあそこでうるさいと、駅的にもよろしくなかったりするこ

とがあったりとかは伺っていますし、あと、各種SNS等でも見たことがある方は多いと思うんですけど、あそこで何か催しをやったときに、奥行きがないものですから通れなくなって、実際に先日も、何かしらで交通規制みたいな感じで止まっていたんですけど、あれで結構クレームが実際にSNSに出ていたりとか、人を集めちゃいけない場所になっているというのが、すごく真反対の話になっているというか、あそこがすごく盛り上がって人が集まったらいいなという話がある反面、あそこに人が集まってクレームになっていると。通れないとか、不便だとか、その辺が根本的におかしいなというところもありますし、さっきのベンチの問題もそうなんですけど、人がたくさん滞留したりとか、動くのであれば、そこに何かしらたくさんあったほうがいいと思うんですけど、それがなかったりとか。なので、ちょっと根本的過ぎてあれかもしれないんですけど、そもそものつくりを少し多分変えたりとかしないと、結構そういうことも難しいのかなとは思っていますけどね。

市長：大事ですね。というのは、どういう空間にしたいのかという根本的な考え方がないと、なかなかそういうふうなところに至らないと思うんですよ。

重岡さん：そうですね。

市長：例えば、高橋さんがさっきおっしゃった、みんな花壇に座っていると。花壇のところに。本当だったら花壇に向けて座ってほしいんだけど、花壇には背を向けて座っているということですよね。

今、手が挙がったけど、おっしゃりたいこと、どうぞ。

高橋さん：本当に今日、こういう会議に招かれて、あの三角形のところを何回か、ここ1、2週間見ていたんですね。正直に言って、できる前に相談してほしかったというのがすごく大きな思いで、先ほどからおっしゃっている高校生の学生たちとか、子どもさんだとか、だけど、このまちには、とっても多くのシニアがいるんです。私たちの世代と同じぐらいの世代。

あそこのあれだけの広場、空間にすぎないところで、何か音が出るとか、舞台でやるには、多分狭過ぎる。人が並ぶと、とにかく本当に多分動けなくなると思うし、それならば、あそこ全体を普通の地面と同じところのデッキにして、ベンチとかを置いて、シニアでも、ベビーカーを持っているお母さんたちも、エレベーターで上がれば、だからエレベーターもきれいにして、隣のトイレも、もうちょっと何とかして、それであそこ全体にカバーがかかっているような場所にすれば、お子さんを連れてくるお母さんたちも、そこで遊ばせられる。

とにかくここを見回してもそうなんですけれども、多分70代の方がいらっしゃるかどうかと思いがら、でも、このまちには、とってもシニアが多いんです。スポーツセンターなんか行くと、私たち女性は、みんな体操教室とかヨガ教室に100人単位で集まっているのに、男性の方、シニアの方が出ていらっしゃらない。多分、認知症とか、そういう問題にすごくつながりやすい。今、寿命が延びていますから。

でも、できちゃったものは逆に今さらというがあるので、あそこに人が座れるようなベンチとか、何かすればいいのかなと思います。

市長：ありがとうございます。

ハード面で解決できることというのは、まだあると思いますね。大きな、例えば人工地盤を作ってくださいというのはなかなか厳しいと思うんですけど、先ほどのベンチの話ですとか、あるいは先ほど出ていた、今朝、入る前に区長とも話していたんですけど、あそこのステージの前を通過させてしまうと、なかなか難しいよね。だから、もう止めちゃったほうがいいんじゃないかとかという話をしていたんですけど、そ

ういう運用面で変えていくということというのは、工夫の可能性は十二分にあると思うんですね。

重岡さん：そうですね。それこそイルミネーションの時期は、あそこを通る人はやっぱり増えていると思うんです。いつもの、ふだんよりもやっぱり。というぐらい、明るかったりとか、通る意味が、もちろんお花とか、そういうきれいなものでもいいと思いますし、あと、丸山さんたちがお得意だと思うんですけど、カフェだったりとか、そういうベンチがあって、お茶が飲めて、景色がよくてとか、イルミネーションでもそうですね。そういう通る意味があるように、うまくつくることがすごく多分大事なんじゃないかなと。道路交通法とか多分いろんなあれがあると思うんで、屋根が作れないとか、あると思うんですけど、何か旅館と旅館の途中にあるなんちゃっての屋根みたいなものとか、風も強いところだと思うので、簡単じゃないかもしれないですけど、何かしら屋根がつくような形とか、人がちょっと休憩できるようなスペースとか何かつくれるなら、全然話が変わってくるのかなと思いますけど。

市長：ハード面でやることというのはあると思いますが、ハード面以外のところでどうでしょう。これからのルールをつくっていくというふうなのはとても大事だと思うんです。

その中で高橋さんがおっしゃった、あるいは五十嵐さんからもおっしゃっていただいたように、誰も排除しないような形ですね。例えば高齢の方だとか、障害の方だとかということが参加できないというふうな形の運用の仕方というのは、みんなの広場ではなくなってしまうので、それはよろしくないというふうに思うんですけども、ソフト面で。

どうぞ藤田さん、どうぞ。

藤田陽子さん：すみません。ハード面で、もう1ついいですか。

ハード面で、屋根もなんですけど、後ろについて立てじゃないんですけど、を作ってもらって、安全面もあるし、そこにスポンサーとかつければ、横断幕とかで、あと飾りができたりとかができるんじゃないかと思うんですけど、またハード面で、すみません。

市長：いえいえ、じゃあ、区長から。

区長：後ろのところに、今年度末ぐらいまでに、木造で後ろがちょっと見えないように、少しは見えますけど風も通すような、バックパネルというのを作って、衛生、安全面にも配慮するようにしたいというふうにやっていきます。

藤田陽子さん：よかったです。

区長：もっとどんどん利用できるようにお願いします。

藤田陽子さん：はい。

市長：そうなんですよ。ちょっとずつ改善というか、やりながら進化していく形だと思います。

あそこに、先ほどおっしゃっていただいたように、風も結構あるので、通し道をつくっておかないと危険だというふうなこともあるので、その辺り、区長はよく考えてくれていると思います。

藤田陽子さん：よかったです。

市長：ほかにいかがですか。
どうぞ。

藤田陽子さん：そのまま、いいですか。

ダンスなんですけど、やっぱりひと団体、五、六十人が普通で、私も180から200人ぐらい生徒がいるんですけど、そうすると、ダンスでイベントをすると出演者だけでも待機場所が必要になってくるんですね。掛ける二、三人保護者を合わせるとすごい人が集まってしまうので、ダンスだけのイベントというよりもダンスと音楽と間を挟んでうまく入替えができるようにしていったほうがいいんじゃないかとは今、思っています。

市長：かなり具体的なプログラムの形になってきましたけど、ありがとうございます。そういう掛け合わせもいいですね。
それからやっぱり……

藤田陽子さん：ファッションショーとダンスが混じって。

市長：面白いですね。

藤田陽子さん：お店の、そうですね、PRが難しいとは思いますが、NOCTYさん、マルイさんの何か。

市長：はい。大木さん、どうぞ。

大木さん：今、お話があったように、子ども向けのイベントをそちらでよく、外で、屋外で、やっていただけると、やっぱり子どもたちも動き回ったりもするので、そういった面で協力を願えると、夜とかもライトアップして、子どももすごい喜んでいるんですね。あの辺の花壇のところ、ちょうど娘が5歳なんですが、上に登って歩くのが大好きなんです、ずっとライトアップのところから、あとお花を見て。そういったことを楽しんでいるので、ぜひその辺の面でもきれいにさせていただいたりとか、あと、やっぱりママさんとベビーカーを押している世代は、疲れちゃうんですね、休憩をしたいんですね。そうするとお茶をしたいというところがあって、マルイまで行く途中に何かがあったほうがママさん世代たちには本当に助かるんですね、階段があって。ベビーカーを乗らなくなったらあちこち歩いてしまいますし、それを追っかけていって、それまでに何かしらモチーフがあると、あそこに何があるからあそこで待っていようねとかいう声かけもできるんですね。

なので、そういったもの、あとイベントもそうですが、マルイさんでよくやっているイベントも参加させていただいています。そういったものも協力して、そちらでできたらなとか、あとはワークショップ的な、今はどこでもやっているかと思うんですけど、キラリデッキでもやっていただけると、子どもたちが参加しやすい、駅はこういうところなんだな、こういうこともできるんだなという、分かるところ、場所にもなりますので、別にイベントごとと楽しむものだけでなく、勉強して活用できる場でもいいと思うので、ぜひそういったのを、電車もそうですし、子どもたちは電車が大好きです。手を振って待っているぐらいなので、駅で。ぜひ電車関係とかでもやっていただいても結構ですし、そういったことをぜひ広げてやっていただけると、そういったのがあってくると、やっぱり屋根とか、そういったものがハード面で必要になってくるな

と。子どもたちの安全を考えると、それは思いますね。

あと、音楽活動なんですけど、私、隣の新城にずっと住んでいまして、結婚して1回離れたんですけど、40年こちらにいまして、今までは駅に行ったら路上で何かしら音楽がやっていたんですね。それがぱったり最近なくなってしまって、そのファンの方が結構市民にいまして、何でやっていないんだろうというのが疑問で、結構今回、この会に出るときにリサーチを取った際に言われて、何で誰も音楽をしていないんだろうという感じで、どうしちゃったのかなみたいな、隠れファンのような方が結構いらっちゃって、それは言われていたので、ぜひ今回できるのであれば、そういった感じで、ダンスもそうですし、ニーズ的なそういう集客とかも考えると、あとは交通とかの面で考えるといろいろ大変かもしれませんが、市民のそういった声も聞いていただけるとうれしいなと思います。

途中のトイレが、特におむつ交換台とかがあるととてもうれしいです。おむつが取れていない子、たくさん、その世代、途中でマルイまで駆け込むのは大変です。何階のどこにあるか、把握できていません、今のママさんたちは。ベテランママは把握していますが、トイレ何階にないとか、あと大きいトイレだと大人用のトイレだとできないとかいうお子様もいるので、ぜひあそこのトイレをもう少しきれいにしていただくと助かります。

以上です。

市長：ありがとうございます。いろいろご要望があると思いますね。

ここで、今日のルールじゃないですけど、もう1回ちょっと確認したいんですけど、先ほど言ったハードの部分というのは、整備していくというふうな主体は市という形になって、あるいは区という形になってくと思うんですけども、この参加者の皆さんが要望する側、要望される側というふうな形になったら、これはストーリーとしては全く面白くない、今までどおり、従来どおりだなというふうに思うんですね。

ですから、例えばマルイさんが本当に川崎市のことにもいろんな協力していただいていますけども、マルイという建物があって、公共空間施設としてのデッキというものと。でも公共といったときに、何となく皆さん思うのは、これは市の管理だからねというふうに、そういうふうに公共という意味が非常に狭い意味での市のものというふうに考えてしまうのではなくて、もう少しみんなの共有物、コモンズの考え方、みんなで共有管理していこうねという。だからルールも、市がこうしてくださいじゃなくて、みんなでどうやったらうまく共存できる場をつくっていくかというふうな形で議論していかないと、多分うまい地域のつくり方、みんながハッピーになるような使い方ならないと思うんですね。

みんながそうだよと共感を生むような、子どものイベントも必要だけど、そればかりに使っちゃうと、じゃあどうなっちゃうんだろうというふうなことにならないような、何か思いやりのルールというふうなのがとても大事なんじゃないかな。それがコモンズというか、共有地としての一定のルールなのではないかなというふうに思うんですね。

いかがでしょうか。そういう認識で大丈夫ですかね。

ですから、そういう意味では施設もそうです。川崎駅で今度進めるプロジェクトもそうなんですけども、ここからこっちが市有地、こっちからこっちは公有地みたいな分け方じゃなくて、その一帯をどういうふうに使っていくかというシームレスなまちづくりをやっていないと、というふうな話をしているんですね。

だからマルイさんの建物、そこからつながるデッキも、そして、そこからつながる商店街も同じようにつながるものにしていくというふうなことをやっていかないといけないんじゃないかなという、そのこの集まる真ん中のところというのがデッキであったら、すごいすてきじゃないかなと思いますよね。

ポレポレ通りさんの話が先ほど出ましたが、(デッキの) あっちを歩かなかったといったところは、少し僕も植栽帯が変わって大分違ってきたなと。そうすると、ポレポレさんからの人の流れという、つながっていく流れも大分雰囲気が変わってくるんじゃないかなと。そして使われ方によってもっと変わってくるんじ

やないかという気がしますけど、どうでしょう。

緑の使い方によって、これからイベントなんかをやられるというふうなお話ですよね。

藤田将友さん：そうですね。

市長：もう1回ちょっと、どういうふうに、これは企画しているのかお話ししていただいてもいいですか。

藤田将友さん：一応、我々がZ O E Nとして行っていた5年前からやっている取組につきましては、もともとはマルイさんの裏にある持田駐車場の屋上eM/PARKでスタートしたんですけども、これは出店をする庭師、造園家の方々からも要請があって、2回目、3回目からはキラリデッキにも、キラリデッキからこちらにマルイの裏まで人に来てもらうというのは結構大変なことなので、何とかまずはキラリデッキでイベント開催を認知していただいて人を誘導したい、来場誘導したいということで、第2回目からはキラリデッキでも展示をしております、今回5回目に関しては、場合によってはですけどもeM/PARK、持田駐車場の屋上は結構広いんですけども、キラリデッキにも今までパワーで行くと2対8とか3対7でキラリデッキが2だったり3だったりするんですけど、5対5ぐらいでキラリデッキにももっと力を投入して、展示もそうですし、先ほど言われていたワークショップですとか、物販のマルシェ的なものも出して、eM/PARKに来場誘導しようというのがあるんです。

そういったことをやっていく中で、今日もいろんな方々が来られていますけど、キラリデッキから来街者、溝の口という駅に降りてきてまちに来てくれた方々を誘導する、まさにキラリデッキがハブなので、もうちょっとキラリデッキをそういう場所として活用させていただけたらなというところでいくと、私、新百合ヶ丘に住んでいて、職場は溝の口なんですけど、新百合ヶ丘は少しご存じの方は分かるかと思うんですけど、新百合ヶ丘の駅前のペデストリアンデッキはしょっちゅうマルシェをやっているんですね。すてきなマルシェをやったり、フェスをやったりしているので、キラリデッキも何でやらないんだろうなと。

ただ、やはりスペースの問題とか、奥行きが少ないとかはありますけど、我々この前11月16日、“midori-ba”フェスでマルシェをちょっとだけ、大規模ではないですけどやらせていただいて、できるなという手応えはつかめつつあるので、何とか今年の4月のZ O E Nのときに“midori-ba”もジョインしてもらって、“midori-ba”だけじゃなくて、場合によっては今日来てくださるどなたかもジョインしてもらって、中学生もジョインしていただけたら、高校生もジョインしていただけたら、洗足学園もジョインしていただけたら。非常に今、溝口は横連携ができるプレーヤーたちがいっぱいいるんですけど、あんまり実はしていないんじゃないかと。ポレポレさんのポレポレのお祭り、イベントのときも、みんな連携してやってしまったほうがいいのではないかなと。そうすると高津や梶ヶ谷、もっと遠くから溝の口の駅を目指してくる来街者が増えるんじゃないかなと勝手に期待してまして、そういう連携を今回の4月18から20でできたりしたらいいなというような話をしていましたよね、丸山さん。

丸山さん：いいですか、しゃべって。

市長：どうぞ、お願いします。

丸山さん：藤田さんの説明が完璧過ぎて、僕からはあれですけど、緑がいいなと思っているのは、すごく縦ジャンルじゃないんだと思っていますね。緑の相性は全ジャンルといいなと思っているので、またスタンスとかサステナビリティはもちろんですけれども、例えば音楽とかアートとか、農とかもやっぱり緑ですし、食とかもそうですし、こういったジャンルとも緑というのが横串的に絡めやすいなというのがあるので、今

でも共創団体ということで、元が要はいろんな団体が集まってやろうというふうなものになっていますので、今後の展望としてもいろんなテーマと一緒にそれをやっていきたいということを考えていますので、ぜひキラリデッキでもそういったことが、ソフト面というお話でしたので、それができたらよいというのはあるのと。

あと、僕から、ちょっとこの後の話でもしかしてあるかもしれないんですけど、そういったキラリデッキという中心地なので、そこをどういうふうに、どういう状態にしていきたいか、何をを目指したいのかというビジョン形成がまず重要なのかなというのと、そのビジョンが恐らく今日のお話なんかからも、いろんな方たちがあそこを活用できるという方向でにぎわいを出していこうということだと思うので、そうすると、そこを活用する人たち、プレーヤーたちだけだとなかなかやっぱりどう活用したらいいかというのは難しいので、運営するというチームが必要だと思うんですね。

それをこの皆さんでしたり、あるいは今日ここにはいらっしやらない運営チームみたいなものを形成して、そこでやはりルールとかレギュレーションみたいなものもそうですし、どうやったらそのプレーヤーとか、あそこで何かをやりたいという声を拾うための仕組みだったりというのが必要なかなと思っていて。まさに、まちの企画室なんかも1年に1回提案事業ということで、まちの人たちからこのまちを盛り上げるためのアイデアを募集しますということを定期的にやっていたりするんですね。そうすることで参加できる形がありますので、いろんな人の意見が集まってきて、それを一緒に、区と、あるいは関係施設との連携をしながら実現していくという形を取っているんですけども、そのもっとビッグバージョンというのがこのキラリデッキでやれたらいいんじゃないかなというふうに思いました。

市長：ありがとうございます。

具体的にもう決まっている、いつやるんでしたでしょうか。4月ですか。

藤田将友さん：4月18の金曜日から18、19、20の週末になります。

市長：ぜひ、こういうふうに決まっている、やると言っているものに対して、今、皆さん、どうでしょうというふうなお話があったので、ぜひ参加して、高津高校の皆さんも参加していただいたり、それぞれ、何かやれるよというのは、それはもうやれることのいろんな温度差があると思いますけど、ぜひこういったところから具体的に始めるというのはすごく大事なんじゃないでしょうかね。やってみて課題があったら、次にまたつなげていこうというふうな形で。

いかがでしょう、皆さん。吉岡さん。

吉岡さん：実は、洗足学園でもキャンパス内で音楽があふれるようにということで野外音楽堂をつくりまして、学生さんが発表する場を持たせようという試みをしました。

先ほど来、騒音の話もあったりとかして、我々もそういったところは悩んではいるんですけど、ただ、やっぱり音楽があふれる、そういったキャンパスをつくりたいということで、学生の皆様とかと相談しながら音ノ庭ラジオというものをつくりまして、それは単純に野外音楽堂で演じはするんですけど、演じているところを配信したりとか、司会も入れたりとか、そういったことを月に1回とか2回とかして、だんだん定着をしているところです。

実は、川崎市の商業施設でチネチッタさんがあって、そこでミモザフェスというのをやっていまして、昨年呼ばれて、この音ノ庭ラジオを出張させていただいて、そこで演奏もさせていただいたし、音楽も配信してYouTubeとかにも同時配信とかさせていただいておりまして、こんなことをしましたら、また今年もぜひ洗足さん、やってよと言われて、3月1日と2日なんですけど、ぜひ来ていただきたいと思いますけ

ど、させていただくんですね。

今のお話を聞いていまして、やっぱり我々、そういった先ほどソフトの話がありましたけど、学生さんという、いっぱいマンパワーというか、ありますので、そういった形でぜひ参加とかさせていただきたいなと、話を聞いていて思いました。

市長：ありがとうございます。

J Rさん、東急さん、特にJ Rさんのところは、今、自由通路のところの木質化を（市が）やっていますが、J Rさんのほうが早かったんですね。エコステーションということで、水素の装置を入れていただいて、あそこの電力を賄っていく、木質化していくというところから始まって、その続きで今どんどんつながってきているという意味で、何か一緒にやれる、つながる、土地の形状的にもつながっているということなので、こういう連携からまた今のグリーンの取組がつながっていくという意味ではすごくいい形になってきていると思うんですけど、いかがでしょう。

小野木さん：そうですね、J R溝ノ口駅では特設会場がございまして、毎週変わって北海道物産展だとか、いろんな物産展が入ったり、ときには自転車メーカーが来て、そこでPRしたりとか、いろんなつながりというのもありますので、そういった部分というのは地域の方々が代わる代わるでもPRするというののいいのかなと。ちょっと今、話は変わってしまうかもしれませんが、それを考えるとキラリデッキなんかも、例えば週替わりでいろんな方々の催しができたりとか、お子様は宝物というふうに先ほどおっしゃっていましたが、それにプラスして、やはり私はシニアの方は財産だと思っていますので、本当に気軽に、じゃあ来週は我々の何かイベントしたいよですとか、そういうような形で予約ではないですけども週替わりでやっていくですとか、ハード面とか言っちゃうと切りがなくなるといいますので、今あるものでどう楽しく考えられるかなというふうに思います。

例えば、場所が狭ければマルシェをやるにしても、いろんな多くのところは呼べないかもしれませんが、今日は何々店で、明日は何々店というような形でいろいろと変えていけば、皆さんも楽しみで、今日は何々店が出るんですよとか、そういうふうな形で楽しみも増えていくのかなというふうに思いますし、例えば、風が強ければ、それをもっと何か逆に、風が強ければ寒いとかではなくて、風が強ければ逆に楽しく考えてみて、風力発電の勉強ができるとか、雨が降れば、かっぱ、傘、そういうもののファッションショーができたりとか、何かマイナス面を考えるとちょっと暗くなっちゃうので、何かそれを利用して逆に楽しむというような形で考えてみてもいいのかなというふうに感想として思ったものですから、本当にきれいごとではあるかもしれませんが、そういうふうに考えたら楽しくなるなと。

区長といつもお話しすると楽しくなるんですよ、話がすごく本当に。そう考えるともっともっと楽しくなるし、週替わりで変わっていくと、例えばお子様の1週間、大人の1週間、シニアの1週間となれば、先ほど最初に出ていましたマナーの話ですけども、みんなが我慢できるからお互いさまだよ、今回はシニアだからちょっと通れないけどいいね、でも子どものときは私たちもちょっと通行止めになっちゃうけれども、お互いさまでそれは仕方ないよねというような形になるのかなという、お互いさまというふうに考えられるのかなと思います。

すみません、長くなっちゃって。

市長：いや、ありがとうございます。

あそこの物産展じゃないですけど、やっている、あそこのコーナーはどのぐらい前から企画だとか予約だとかというのが始まるんですか。

小野木さん：もう大体3か月ぐらい前から始まっているんですけども、でもお客様なんかは、来週は何やるのと本当に楽しみに聞いていただける方もおりますので。

市長：そういう意味では、6か月先のイベントとかで一緒にあそこのブースで物販みたいなのができるというふうなのをコラボすることができるということですか。

小野木さん：そうですね。それに合わせて、あそこの物産展とキラリデッキを合わせて両会場をつなぐとか、そういうこともできるのかなというふうに考えております。

市長：ありがとうございます。

いいですね。そういうものもつなげられる可能性がある。ありがとうございます。

谷さん、いかがですか。

谷さん：今、JRの小野木さんからいろいろお話しいただいた中で、ほぼほぼ同じようなこともできるかなというふうに思っていますけども、まず、気持ちという話も皆さんのほうから出たかなというふうに思うんですけども、私の部下も60人弱ぐらいいますけども、できない理由は探さないようにといったところで、どんなことができるのかなという、ちょっと今までと違う発想とか、いろんな考え方があると思うんですけども、できることなんだろうねというところから話そうかというのは、常日頃から職場の中でも話しているところです。

ちょっとそんなところで、ふだん顔を合わせない皆さんと、なかなか顔を合わす機会がないかなというふうに思うんですけども、今日は数名ではございますが、顔見知りになったといったところもありますので、いろんなアイデアを、この場だと時間が少ないのかなというふうに思いますので、個別にとか、今後ともみたいところで、何かしらデメリットばかりになっちゃうなという方の話だとちょっと難しいかなというふうには思うものの、何かしら協力して1つのものをつくり上げるとか、何かしらができるのかなというふうに感じたところです。

現状、何ができると言われると、結構駅だと縛りがあったり、いろんなところがあるので、これをやりましょう、そうですねというわけにはなかなかいかないかなといったところもあるというふうにも思いつつ、何かしらはできるかなというふうに思っていますので、ぜひ一緒にできればいいかなというふうに思ったところです。

市長：ありがとうございます。

どうぞ、須藤さん、じゃあ、いいですか。どちらでも、じゃあ、須藤さんからお願いします。

須藤さん：駅長さんの風を利用するというお話から、私、子どもたちが折り紙で風車を作ったりしますので、そういうのをわーっと並べている風景をちょっとイメージしました。

何かそういうクラフト、あのスペースでもできる、子どもたちが例えば作ったものを通りすがりの方に見ていただくとか、そこでまた通りすがりの方が子どもたちに声をかけていただくということで、本当にコロナ禍で止まっていた人との交流が生まれると思いますし、ミニ・ガーデンのお世話をされているということなんですけれども、子ども会のほうでも緑化フェアのときに富士見公園で食事を少し代表者がやらせていただきましたが、なので、そういったことで、また一緒に活動をさせていただくことができるのかなと思います。

何かそういう特別なときと、あと、ふだんの日常使いのあそこの一角というのをちょっと分けて考えたら

いいのかなと思ってまして、今はそこは芝生なので、花壇の縁に座っても大丈夫ですよ。

区長：大丈夫です。ベンチもできました。

須藤さん：なので、あそこでちょっとお母さんと子どもが話している風景とか、何かちょっとひと休みできる、先ほどもおっしゃっていましたが、そういう日常としてはほっとできるような場所もつくりたいかなと思います。

そして、お祭りとか、そういったときは、またいろんな方のご協力を得て楽しくやっていくということで、高校生が祭りをしたいということなんですけど、高津区には高津区民祭があるじゃないですか。だから、今年、何かそういうのできっかけで高校生もリーダーシップを発揮してやってもらえるといいのかなと。そうすると高校生の間にまた子どもたちが入ってきて、ふだんは親と子の関係なんですけど、そこにいろんな人が入ってくことで、また学んでいけるような気がします。

市長：ありがとうございます。

高津高校、数か月前、一緒に溝口周辺をごみ拾いしたんですけど、そこに集まっていた企業の皆さん、すごかったですよね。企業だとか団体の皆さん、すごい集まっていて150人ぐらいいましたかね。150人ぐらいで一斉に溝口周辺のごみ拾いをやったんですけど、すごい、今度は、夜にごみ拾いをしてみようというふうな話にもなりまして。というのは、さっきのマナーじゃないですけど、ごみを捨てる時は大体夜捨てているみたいな話なんですね。だから、捨てている人の前で、みんなでごみを拾ったらどうだという話になって、そういうアイデアはこの前車座で生まれて、じゃあ、やってみようということになったんですね。

だから、すごいいろんなコミュニティが、ちょっと僕では発想つかないようなものが出てきたりしていて、そういうつながりはすごくすてきだなと思っていて、本当にありがとうございます。

榎田さん、どうぞ。

榎田さん：今、まさに、藤田さんのお話とすごく似ているんですけども、イベントごとがそのときだけある、そのときだけ人が集まるではなくて、先ほどJRさんもお話しされていた日常的に常に人が通る状態になっていて、そのときにイベントがあつて、さらにというのがすごく治安としてという言い方もあれなのかもしれないんですけども、雰囲気がすごく平日頃からよくて、さらにイベントをしてよくてとなると、よりよくなっていくのかなということをJRさんのお話を聞いて感じました。

なので、週替わりで、今週は子ども向け、来週はシニア向け、中高生向けというような継続的に誰かが何かをそこでしている、そういう状態ができていたら、よりマナー、治安というところもどんどん雰囲気がよくなっていくのかなというふうに、今、具体的に何かというアイデアがあるわけではないんですけど、そういうことを感じました。

市長：ありがとうございます。

やっぱり先ほど藤田さんから出たように、どこか運営をちゃんと回していくという、コントロールしていくということで、話し合いというルール決めは、みんなでより多くの人たちで決めていくということが大事ですよ。そうじゃないと誰がどうなっているのか分からないというふうな話だと連携しようがないというのが多分あると思うので。

高橋さん、どうぞ。

高橋さん：根本的な質問なんですけども、あのキラリデッキは誰の土地、誰のものなんですか。区のものですか。

市長：川崎市ということで、市になります。

高橋さん：川崎市。高津区には、花コンサートといって、コンサートを区役所でやっていて、これがもう多分20年か30年ぐらい、運営はボランティアがやっていて、2月末ぐらいまでにデモテープをみんなが送って、その方たちが選んで、毎月4月、5月、6月と第4火曜日でやっているんですけども、もしこれが区に関係があるのであれば、区のほうにそういうボランティアのグループをつくっていただければいいし、だけど市のものならば、市のほうで。

市長：とはいえ、実質は区なんです。なので区です。すみません。市も区も一緒ですけど。

高橋さん：だったら区のほうにそういうボランティアの立ち上げみたいなのをされて、本当に花コンサートなんかはもう何十年も第4火曜日は大変楽しみにしているという、コロナの最中でも逆に夕方5時とか6時ぐらいの時間に一般の方がいなくなってからドアを開けて、道路の音も丸聞こえなんですけども、やっていたんですね。

だから、そういう、やっぱりコアになる団体みたいなのがあればいいんじゃないかなと思います。

市長：じゃあ、五十嵐さん。

五十嵐さん：すみません。今回のこのキラリデッキ制作に当たりまして、ここから未来プロジェクト運営協議会の準備会という協議会で制作に当たりました。

今後、準備会がここから未来プロジェクト運営協議会という形で形を変えてここの運営管理というものをするようなシステムにつくり変えていく予定であります。

今のところそれがNPO法人になるのか、ちゃんとした管理としてできるのかというのは、今協議中ですので……

市長：ちょっとその辺りは、区長から説明したほうがいいんじゃないかな。

区長：最初ステージを、いわゆるキラリデッキをきれいにしようというふうになったときに、やっぱりこれを誰がどういうふうにやっていくのということがすごく大事なというふうに言っていて、ただ、それを例えば区だけが中心になって区に頼めばいいやということになると、そうすると、何でも先ほど来の話じゃないんですけども、何か私たちに言って運営してイベントをやろうねとお金を補助してとかになっちゃうんですけど、そうじゃなくて、区民祭という話が出ましたけど、去年、区民祭ができなくて、それで子ども会さんなんかもパレードを楽しみにしていた、ダンスを楽しみにしていた人たちとか、みんなできなかったんですけども、そういう人たちが自分たちがどういうふうにしたらできるの、または、どういうふうに関われるのということをみんなでこういうふうを決めるような、そういう仕組みで運営していくようにしないと長続きしないよねと。キラリデッキが幾らきれいになったって、ただ行政がやっているだけ、区でやっているだけみたいになっちゃうから、みんなで、私たちこういうことをしたい、僕たちこういうことをしたい、私はこうしたい、さっき高津高校の方が言っていましたけど、4つの高校で、それでみんなでお祭りをするとかという話があって、そうか、そこは気がつかなかったなと本当に思ったんですけど、そういうことを、

私はみんなでやりながら決めていくといいんじゃないかなというふうに思っていて、それを最初に、ただ、核となるところはやっぱり重要なので、五十嵐さんたち、もともと高津区にずっと住んでいて、それで高津区をよくしたいという方が出てきてくれたので、そこで、まず核となってやって、私たちもサポートはしますよという形の中でやっていこうかなと、こういうふうに思っているというところです。

なので、私はさっき話をずっと聞いたんですけど、みんなで少しやりながら、やっている状況を眺めて、ここを変えたほうがいいねというところは少しずつ変えていって、通路の話もそうですけど、人がたまるところはベンチも置いたらどうかとかいう話もちよっとずつバージョンアップしていけばいいかなというふうに思っています。運営もそうです。というふうに考えていますけど。

市長：これは今、五十嵐さんのおっしゃっていることはステージの話をされていますか。

区長：ステージも含めてですね。

市長：ステージとデッキ全体のことということですか。

区長：ステージについては、もちろん五十嵐さんのところが中心になってやってもらうんですけども、デッキ全体のところも五十嵐さんのところを中心にみんなでこう考えたらいいかなというふうに。

市長：今、藤田さんがおっしゃっていたような形は。

区長：そうです。そういうことをやりたいなと思う。すみません。混乱させてしまって。

ステージは、だから五十嵐さんがもちろんやっていただくんですけど、キラリデッキを使ったところの全体の感じというのは、みんなで考えたらどうかというふうに、キラリデッキ全体のイベントとかを。

市長：そうですね、多分。というか、例えば中村会長もそうですけど、イルミネーションを毎年やっていたという。あそこを全体のコモンズの話をしていくと、どういうルールづくりをしていくかというために今、皆さんが集まっていたいただいていると思うんですけども、こういう方たちプラスアルファ、いろんな人たちが集まっていたいただいて、ルールづくりをしていくと。先ほど言われたように、誰かが、運営するチームがないと、これ、みんな勝手なことを言っちゃってスケジュール調整も含めてできないから、そこは絶対必要だよなと。私の理解では、五十嵐さんがステージのところのデッキを作る段階から、それを協力していただいて、ステージのことについての、この前もやっていただいたと、そういうベースはあるよというふうなお話ですか。

区長：そうです。

市長：なるほど。

五十嵐さん、何か付け加えることはありますか。

五十嵐さん：いや、あくまでステージに関しての運営管理というところで、全体としてはやっぱりいろんな方が、今日参加してくださっている方々もしっかり参加できるようなシステムが必要だと思います。そういう協議会は必要だと思います。

市長：そうですね。ですから、そこの1回、協議会の、まず、どういうふうな形で皆さんと衆知を集めていくかというのは、1回、区役所の事務局でまとめてやらないとあれですよね。という形でいいですよね。

区長：いいです。その部分は、区役所のほうで最初にまとめてベースをつくって、その中で少しずつやりながら考えていくという形です。

市長：そうですね。

庄司さん：いいですか。

市長：どうぞ、庄司さん。

庄司さん：少しずつ形になってきているんだなというのを感じつつ、私も昨日ちょっと表参道のほうに行っていてファーマーズマーケットを見て、こういうのをもっと溝口であればいいなと思って、本当に賛成です。

今、高津区内でいろんなイベントも行われているのが、何かばらばらに行われている。今、キラリデッキが1つハブになって、そこに来た人がまた違うところに流れていけるように、どこで何をやっているかという情報があれば、それに合わせて、じゃあ、うちも何かこの日にやって、来てもらうようにしようとか、そういう流れができてくるんじゃないかと思うんです。何かそういう情動的な発信もうまくできるような運営協議会的なものがあるといいなというふうに思いました。

それともう1つ、最後に、ぜひそういった運営するときのパワー、エネルギーは再生可能エネルギーで、できたら見える化して、太陽光パネルとか、どこかに設置するとかという形で、やっぱり脱炭素も感じてもらえるといいなというふうに思います。

市長：それはもう絶対マストだと思いますね。脱炭素アクションみぞのくちと言っている以上、それをやらないと全くもって何やっているんだという話になります。そこはもう必須だというふうに思います。

藤田将友さん：はい。

市長：藤田さん、どうぞ。

藤田将友さん：こちらは体験談からの話なんですけども、先ほどの協議会、協議体みたいなものは、運営については結構必要じゃないかなというのが、この11月、昨年、キラリデッキでイベントをやってみて感じたことがあって、申請行為が非常に大変であったという認識です。

市にも申請して、区との協議もあって、道路公園センター、そして、もしステージを使うのであればステージのほうも協議が必要、雨天になった場合はステージを使いませんので、キラリデッキの下で何かできるようにしようとなりますと、今度はJRさんとの協議が、申請が必要と、こういったことを一般の方々がやるというのは結構大変だなとつくづく感じるので、やはりそこは取りまとめの運営がいたりして皆さんと連携を取って、円滑にキラリデッキやステージを利用できる、活用できるというスキームといいますか、流れができればいいのかなと、私、苦労したので、感じました。

市長：いやいや、そうだと思います。

例えば川崎市内でロケ地誘致もやっていて、いろんなところで、日々、毎日365回以上のものが川崎市

内のどこかで行われているので、そこはNPO法人のムーブアートですか、というところがやっていて、申請だとかというふうなもの全部つなげてくれているというふうなのがあるんですよね。

ですから、そういうふうないわゆる中間支援じゃないですけど、運営組織というのは、先ほど来、出ているように、必ず必要になってくるかなというふうに思いますね。なかなか1件1件、そのために、イベントごとというふうなのは物すごく大変なので。

ただ、なるべく簡略化すべきなんですけど、一定程度はやっぱり申請だとか許可だとかというのは必要になってくるので、そういうふうなものをどうやって軽減するかということは大事だと思いますね。

持田さん、地元からのご意見、今、聞いていて、ご意見があれば伺いたいんですけども。

持田さん：今の申請の煩わしさというか難しさは、商店街も今まで大分苦勞しております。

最近、市のほうも簡略化というか、それが進んできまして、商店街についていろいろ補助金等の申請については比較的楽にはなっています。

ただ、いろんなことをする、イベントをするといったときに、おっしゃっていたようにいろんな窓口にお願い、許可をいただかなくちゃいけない。私どもの場合、ポレポレは、おかげさまでモール化したときに、表層部分は商店街の土地なんです。土地というか財産になっています。そういったところで、何かそういったときには、公園センターにはお届けはしていません。ただ、警察には道路使用許可をお願いして使っています。

ちょっと話がずれちゃうんですけども、商店街で昔から私がやってみたいと思ったのは、フラッシュモブ、今はあんまり聞かないんですけど、何かそれをやってみたいという気持ちがちょっとあるんですね。

ですから、例えばまちの中でやるのが難しければ、どこかの幼稚園とかの運動会に行って、その昼休みの時間にちょこっとやってみる、キラリデッキか何かでしたときにいきなり皆さんの誰かが踊り出すと。何かすごく楽しいなというイメージを持っているんですよ。

商店街でやるとなると、どこにどうお声がけしたらいいか。60、70のじいさん、ばあさんが踊ってもしょうがないので、盆踊りになっちゃうと思いますので。高橋さん、70代です。ご安心ください。はいしていますよじゃないんですけど。

そんな形で、本当に何かをしていくための準備、それはすごく大変なんですけど、やっぱりうまくいった後の皆さんの笑顔、感想、それを聞くと本当によかったなという気持ちが強いですね。

今おっしゃっていた高津区民祭は、私も第7回ぐらいから実は立ち会っております。13回のときに責任者をしたんですけども、あの頃はまだ30代ですから警察に行っても何も言えないんです。言われるとおりました。

そのとき、私が事務局長をやってまず真っ先に出たのは、自主警備をなささいという問題を突きつけられました。要するに栄橋から二子橋までの1.5キロ、辻々に全てガードマンを置きなさい、それによって交通の遮断等の安全を図りなさい。うそを報告しました。大体3分の1ぐらいの。ありがたいことに交通課長が来たばかりだったんですよ。うそを報告しまして、ここは行き止まりです。ここは抜けられませんと、適当というか、どういうわけか通っちゃったんですけど、翌年から大分メンバーが苦勞したことがあります。そういったことで、地域の安心安全を守っていただいている警察をだました気持ちはしていないんですけども、そんなこともありました。

今は、男女共同参画センターは、警察に行って参画センターはどこですかと言われたんですけど、スクラム21ですね、当時、市民館の立場でもって青年会議という団体があって歌謡ショーをしておりました。そのとき私、石川さゆりさん担当だったんですけども、実は券を販売し過ぎまして舞台の上に上がりましたら、人の顔しか見えなかったんです。そのとき横でホリプロ社員の方に言われたのが、君たちすごいね、こんなことを我々できないよと言われちゃいましたけど、そういう歌謡ショー的なものもしていきたいなという

ころも、今、歌謡ショーじゃないですけどね。年寄りになるとグループサウンズがやっぱり懐かしくなってくるというところがあるので、そういうのがそこでできれば。

今、五十嵐さん、おやじバンドは結構また出ていますよね。そういった方もステージになるような、そういう場所になっていくといいかなと。

こんなことしかやっていないのかよと言われるのは悔しいですから、来てよかったよ、楽しかったよと言ってもらえるようなものを、ここにいる皆さん以外の方でもいろいろお考えになった上で進めていくのがいいのかなと。

ちょっと話がずれて申し訳ない。

市長：いえいえ、ありがとうございます。

佐藤さん、いろいろ協力していただいておりますけども、マルイと例えばデッキのつなぎみたいなものとか、一緒にやれることはどんなことができるというふうに、何かやりたいなとかという個人的なあれでも結構ですけど。

佐藤さん：正直言いますと、マルイは長年、溝口にいますけど、中で働いているスタッフはころころ変わるんですよ。私がレアなだけで、溝口のことを知っている人がいないんですね、詳しい人が。なので、逆にマルイとしてどういうことができるかというのが分からないんですよ。そういうつながり、こういうことをしたいときはどこに声をかけたらいいとか、そういうのがあまり分からないので、逆に今日、こういう場に参加できて、いろんな活動されている方たちを知れたので、これをきっかけにつながれたらと思うぐらいなので。

マルイとしても、今サステナブルな取組というのを会社としてミッションとしてやっていて、それをお客様に知ってもらって、アクションしてもらおうというのを最終的なミッションとしてやっているんですけど、なかなか施設の中だけで外にいる人たちには伝えられていないので、そういうのをキラリデッキを通して、お互いの持っているもの、強みとかを生かしながら、それぞれ活躍できるようにできたらと思うので、先ほどもおっしゃっていましたが、そういうプレーヤーが集まって、お互いのニーズを伝え合える場所というのは必要なんじゃないかなと思っております。

なので、私たちは、まだちょっとどういうことで役に立てるかというのが分からない状況かなとは思っています。

市長：マルイさんは顧客のパーセンテージで言うと、男性、女性でいうと女性のほうが非常に多くないですか。

佐藤さん：そうですね。

市長：そうですね。僕は、溝口店のノジマ電気さんから聞いた話なんですけど、全国のノジマ電気を買っていく人はほとんどが男性らしいんですよ。なんですけど、溝口店だけは圧倒的に女性なんですと。それはもう類を見ないほど違うらしくて、こんな店舗はほかにないですよと言っていたのが印象的で。やっぱりマルイさんの影響力というのもすごく大きいと思うんですけど、要は若い、働いている女性の顧客数がすごい多いということなんですね。

ですから、そういう地域の特性というふうなのをどうやって地域と一緒に引き出していかと。キラリデッキのところのイベントだとか、地域の魅力につなげていくかというふうなのは、何か共有したい情報ですよ。

佐藤さん：はい。

市長：ですから、そういう意味ではマルイさんに入って買われている購買層の人たちに、どう溝口のよさだとか、晴れの日の舞台をというのでやっていくと、お互いに相乗効果が生まれちゃうんじゃないかなという気がしますね。

ありがとうございました。

佐藤さん：ありがとうございました。

市長：どうぞ。

重岡さん：さっきのお話、最初にあったやつなんですけど、やっぱり誰かが本当にチームをつくって、ちゃんと管理しているということにして、あそこは外ですごく開けた場所なんですけど、1つの会場というか、場所だと思うので、もう本当に枠も時間も全部決めて、あとやれること、商売していい、悪いとか、ルールを本当に確実につくって、でもいろんな人たちがそこをどんどん予約制で、何かやっぱりやるのはすごくパワーが必要なことなので、やりたい人はここに集まっている方たち以外にもたくさんいて、いろんな施設を使って、半年前とか1年前から予約してこうやっている方たちがいるんですけど、あそこが使えるんだったらやりたいわという方は絶対にいらっしゃるので、そこをとにかく開いて使っていけるように窓口をつくってやっていければ、多分すごく温度の高い場所になるんじゃないかなと本当に思うので、そういうのをつくれたらいいなと思います。

市長：ありがとうございます。

ほかは、もう大分時間が迫ってまいりましたけど、まだご発言いただいていない方、あるいはもう少し足したいなという方、いらっしゃいますでしょうか。

どうぞ、齋藤さん。

齋藤さん：私は生徒会以外にも軽音部に入っているんですけど、前に冬ライブとして、溝ノ口劇場さんがご協力してくださってやったんですけど、そのときにチラシでオープンマイクというものがあって、それですごい参加してみたかったんですけど、予定が合わなくて行けなかったんです。キラリデッキをオープンマイクという形で、みんなが楽器を持ってきて自分の好きな楽器を弾いたりとか、何か歌を歌ったりとか、そういうことをすることで、溝口で音楽が好きな人たちがキラリデッキを使って音楽を発表できたり、ほかの市の人とかが溝口でオープンマイクをやるらしいよ、じゃあ行こうとか、そしたら、そこでキラリデッキでオープンマイクをやるだけじゃなくて、溝ノ口劇場さんでもオープンマイクをやっているということを知ったら、みんなが、じゃあ次は室内でもっと大きい音を出してやりたいねというので、つながりができるんじゃないかなと思って、それを何かやってみたいなと思いました。

市長：ありがとうございます。

そういう意味では、吉岡さんのさっきおっしゃっていた洗足の野外ですか、というところも含めて、何かそういう意味での施設連携だとかというのがつながってくると物すごく面白いですよ。ありがとうございます。

どうぞ。

吉岡さん：大丈夫です。

市長：ありがとうございます。ほか、大丈夫ですか。

藤田さん、大丈夫ですか。どうぞ。

藤田陽子さん：大したことじゃないんですけど、またハードになっちゃうかもですけども、定点カメラみたいなのをステージに向けて設置できると、今日何がやっているのかなとみんなも確認してから出かけたり、あと、もうそのままライブとかをおうちでも見られるのかなと思ひまして。

市長：面白いですね、確かに。

藤田陽子さん：今日、何がやっているかなとちょっと見られたりとか。

市長：それは面白いですね。

藤田陽子さん：ありがとうございます。

市長：ナイスアイデアだと思います。

藤田陽子さん：あとはやっぱり無料で見られるもの。みんなが通る場所なので、今まで見たことない漫才だとか、落語だとか、あと歌舞伎だとか、そういう見たことないものを興味持てるような何かをやってもらえるのもいいかなと思います。相撲とか。

市長：相撲ですか。

藤田陽子さん：難しいですね。子ども相撲だったら。

ありがとうございます。

市長：ありがとうございます。

大丈夫ですか。皆さん、ぎりぎりに残していること、一言言っておきたいこと。

ありがとうございました。今日はいろんなアイデアが出てきたと思います。

今の限られている状況の中で、どんなことができるか。ハード的な部分というふうなのは、まだいろいろ改良の余地がある、あるいはこれからのニーズというふうなものがあるだろうなということは認識させていただきました。

そのほかに、共通のルールをつくっていく必要があるという意味では、多くの皆さんにこれからもちょっと参加していただいてルールづくりをやっていく。

それから、ステージをはじめ、デッキ全体をどうやって運営していくのかというふうなことというのは、これは核となる人、あるいはグループというのがないと、少しどうにも回らないということ、申請の話もありますし、というのもしっかりと決めていかなくちゃいけないということもあります。

なので、まず、今日のいただいた意見というのは、高橋区長のところでしっかりとまとめてもらって、改めてどういう形でルールづくりをやりましょうかというふうな話、運営母体どうしていいかということ

決めていく、進めてもらいたいというふうに思っております。

それから、せっかくですから今度、藤田さん、丸山さんのところでやられるみどりの共創プロジェクトから派生したというふうなものについては、もう具体的な日時も決まっているので、ぜひ今日お集まりの皆さんに何らかの形で試験的に、これからが始まりでどんどんやっていくので、課題を自ら把握しながら次に改善していくためにも、ぜひ皆さんにご参加いただければなというふうに思いますが、ご連絡は。

藤田将友さん：私が。

市長：藤田さんのほうにぜひご連絡をいただければと思います。

当然、区のほうも少しサポートをしていただいて、次につながるような形にしていだきたいなというふうに思っています。

せっかくこういう溝口を中心としたいいコミュニティは、それぞれ素晴らしい活動をされている、取組をされているところが重なることによって、もっと素晴らしいものになるというふうな形にしていければありがたいなということで、今日はその第1ステップ、種がまかれたというところだと思いますので、これから芽が出て花が咲くように、皆さんのご協力よろしくお願いしたいと思います。

今日は貴重な時間をいただきまして本当にありがとうございました。

司会：皆様、長時間にわたってのご協力ありがとうございました。

以上をもちまして、第72回車座集会を終了いたします。お疲れさまでした。